

南楼の望（廬僎）

去國三巴遠 登樓萬里春  
傷心江上客 不是故鄉人

國を 去つて 三巴 遠し

解説 重慶を流れる長江のほとりにある楼に登つて、旅中の身をおもい、その旅愁を詠つたもの。

楼に 登る 万里の 春

語釈 ※去國 長安をさす。 ※三巴 四川省をさす。長江が重慶の東南で、三つに折れ曲つて巴の字の形をなすので三巴という。

※万里春 どのもかしこも春景色。 ※傷心 心がいたむ。

※江上客 ここでは自分をさす。

心を 傷ましむ 江上の 客

通釈 長安の都を去つて、遠い三巴の地の旅人になった。たまたまこの南楼に登つて見ると、あたりは春たけなわである。だが、川のほと

是れ 故郷の 人ならず

りの楼にたたずむ私の心は痛むのだ。私はこの土地の人ではないのだから。